

- 空き家をリノベーションして、交流拠点施設を整備。地域の農泊の拠点・窓口として機能。
- 春夏秋冬・季節ごとの魅力をツアー企画として商品化。農泊をビジネスとして自立した運営を目指す。



キーワード

内発的

外部人材

農泊

基本情報

- 所在地：北海道河東郡鹿追町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：鹿追町農泊推進協議会
- 主力商品・イベント：
 - 季節に応じた食と体験コンテンツの農泊ツアー
- 活用している地域資源：
 - 農畜産物、空き家、大自然（国立公園、ジオパーク、森、湖、川、平原、雪）
- 主な国等の支援策：
 - 平成29年度農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- これまで地域の事業推進や取りまとめの中心的な役割を担ってきたNPO法人北海道ツーリズム協会が事務局となり協議会を設立。体系的な農泊の基礎づくりを実施。
- 取組の中で、ビジネスとして自立運営できる体制を構築するため、『一般社団法人E n』を立ち上げる。代表者は国内旅行業務取扱管理者の資格を取得。
- また、空き家を改修し交流拠点施設を整備。地域DMO機能や農泊受入のワンストップ窓口など、地域の農泊の拠点として機能する。
- 現在は、連携する旅行会社を通じ、『E n』において農畜産物や大自然等、地域の魅力をオールシーズンで発信。ツアー企画を商品化し、宿泊者数や売上高の増加を図る。



犬ぞり体験

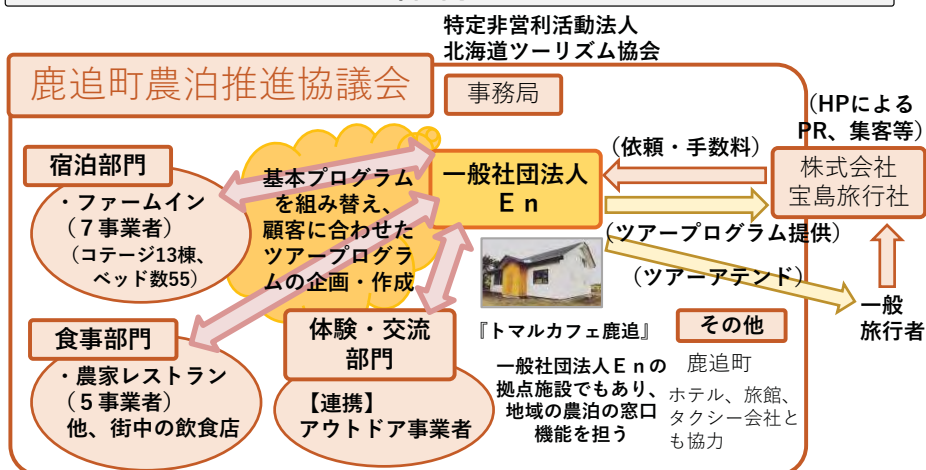


熱気球体験



地元農産物を使ったピザ

体制図



取組の成果

- 協議会のツアー商品の販売実績（R元年度）
 - ・宿泊者数：1,650人泊
 - ・売上金額：2,300万円
- 地域全体の売上高（R元年度）
 - ・宿泊：1,800万円
 - ・農業体験：1,500万円
 - ・農家レストラン：1億5,000万円



ホース・トレッキング

所在地 ▶ 北海道河東郡鹿追町本町2丁目35

連絡先 ▶ TEL:0156-69-7333 FAX: 0156-69-7334

E-mail: takeda@htu.ne.jpウェブサイト ▶ <http://www.htu.ne.jp>

（※特定非営利活動法人北海道ツーリズム協会のサイト）

【取組のプロセス】

当時問題になっていた農産物貿易自由化の危機感をきっかけに、幅広い議論を展開。

1988年～

きっかけ

○町内に農家レストランがオープンしたことをきっかけに、地域の5名ほどの青年が、目指すべき農業などについての勉強会を始める。

ツーリズム大学後、農業者の取組にアウトドア事業者も加わり、グリーン・ツーリズムの魅力が広がる。

1990年代

地域の農村観光の事業化に取り組む

- 1990年「鹿追町ファームイン研究会」を発足。ファームインや農家レストラン、農業体験などの実践を地域に広げる活動やネットワークづくり、地域の農村観光の事業展開に取り組む。
- 事業者が個別の取組として、予約システムを独自に構築し、リピーターを中心とした集客と売上の確保を図り、事業化を進める。



きっかけとなった農家レストラン「大草原の小さな家」
(写真は2018年のもの)

地域の様々な資源を一元的にセット化し付加価値を高めた販売ができていない
拠点施設がなく、地域の魅力の発信が不十分といった課題も見えてくる。

2000年頃～

それぞれの事業者による農村観光の推進と人材育成の取組

- 2001年～2003年、北海道ツーリズム大学を開講（NPO法人北海道ツーリズム協会（鹿追町ファームイン研究会から改組）主催）。農村観光を担う人材の育成に取り組む。
- 各事業者がそれぞれの事業の取組を続ける中、これまで全体の事業推進や地域の取りまとめの中心的な役割を担ってきたが、NPO法人北海道ツーリズム協会が資金不足や人材不足となり、地域が自立して事業を行う必要性が感じられるようになる。



北海道ツーリズム大学の様子
(2001年からの3年間で計6回、2018年から19年にかけて計3回開催)

農山漁村振興交付金（農泊推進対策）等の活用

2017年～

体系的な地域の農泊推進の基礎づくり～自立化に向けての取組

- NPO法人北海道ツーリズム協会を事務局として、『鹿追町農泊推進協議会』を設立。国の交付金事業の活用により、地域の農泊の推進に取り組む。
- 地域の合意形成や人材育成等を行うとともに、交流拠点施設を整備。また、地域DMOの役割を担う組織を立ち上げ、一般社団法人化。代表となる人材の育成にも取り組む。
- 代表者は国内旅行業務取扱管理者資格を取得し、法人として旅行業務を直接行うことが可能となった。整備した施設は、地域DMO機能や農泊受入のワンストップ窓口としても活用。
- ツアー商品の販売については、基本形を作成し、ユーザーの希望や旅行者との協議により、その都度内容を組み替え、顧客に合わせたツアー内容で受入を行っている。（現在は、連携する旅行事業者から、プログラム企画・作成やアテンド手数料を受け取る形で運営。）



交流拠点施設
『トマルカフェ鹿追』
(カフェ、宿泊の機能も持つ
地域の農泊の窓口施設)

交付金事業の中で、北海道ツーリズム大学も復活させ、地域の合意形成や人材育成を行う。

2019年度までに、18種類のツアー企画を実施。

今後の
展望

自立した人材・組織による、ビジネスとして地域の農泊の継続を図る

- 組織が立ち上がり、地域の農泊をビジネスとして、自立して運営する体制が構築された。
- 若い、次の世代を育て、若い世代と一緒に学ぶ「場」をつくりながら、取組を進めていく。更に、「オンラインツアー」の事業化など、新しい取組も検討していきたい。

- 就労継続支援A型事業所を平成25年4月から運営。知的・精神障害を持つ利用者が通年で野菜の生産やジャガイモ等の一次加工、コミュニティレストランの調理や接客に従事し、安定した高賃金を実現。



キーワード

外部との連携

障がい者

企業

農福

基本情報

- 所在地：北海道芽室町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：株式会社九神ファームめむろ
- 選定表彰：
 - 第3回ディスカバー農山漁村の宝（H28）特別賞（アクティブ賞）
- 主力商品：野菜一次加工品、コミュニティレストラン
- 活用している地域資源：農林水産物、農地
- 主な国等の支援策：都市農村共生・対流総合対策交付金（H27～29）※
※「NPO法人プロジェクトめむろ」として実施

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」を運営。知的・精神障害を持つ約20名の利用者が野菜の生産及び一次加工に通年で従事。
- 町内に障害者の就労場所を確保するため、芽室町は、障害者就労の実績がある民間企業に障害就労のコーディネートに依頼。官民一体の就労参画プロジェクト「プロジェクトめむろ」を発足。
- JAめむろから農作業指導を受けるほか、加工原料のジャガイモが不足する場合には提供を受けるなど協力体制を構築。出資企業の惣菜店が、一次加工したジャガイモを全量買い取っている。



農作業の様子

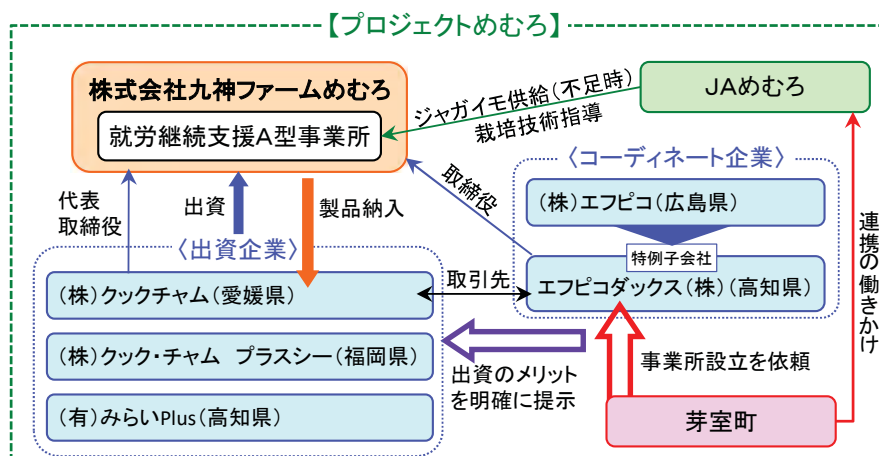


加工場での作業



コミュニティレストラン

体制図



取組の成果

- 利用者に平均11万円/月を超える賃金を実現（R元）。
- 作業に従事する利用者は開設当初の9人から20人（H25→R元）に増加。農作業や農産加工で成長し、他産業での一般就労に移行した例も多数。
- 「プロジェクトめむろ」の取組により町内に多くの就労先を創出。



レストランの地産地消メニュー

所在地 ▶ 北海道河西郡芽室町中美生2線47-1

連絡先 ▶ TEL:0155-65-2280 FAX:0155-65-2282

E-mail:pjmemuro@gmail.com

ウェブサイト▶<http://project-memuro.com/about/foundation.html>

【取組のプロセス】

町で生まれた障害者を持つ子供たちのために、将来の就労場所の確保が課題

～2012年

きっかけ

○ 障がい者雇用やコンサルティングの実績を持つ企業に芽室町がアプローチ

【出資企業】 障害者の雇用を拡大したい。
【芽室町】 この町で生まれ育った障害のある子供たちの働く農園を持ちたい。く場を作りたい。

町とアドバイザーが連携して出資のメリットを企業に対し明確に提示

2012年～

プロジェクト発足、法人登記

- 平成24年、障害者の就労場所の創出を課題としていた芽室町が、障害者雇用及び他企業へのコンサルティング実績を持つエフピコダックス（株）の障害者雇用責任者を「芽室町障がい者福祉就労事業所誘致推進会議」のアドバイザーとして任命。
- 正しい障害者雇用の実績がある企業に事業所設立のための出資を要請。出資企業による株式会社九神ファームめむろの法人登記。関係団体との信頼関係を構築。

【コーディネート企業】 障害者“でも”出来ることではない。障害のある彼ら“だからこそ”出来ることを追求したい。どの場所“でも”できる仕組みを証明したい。

職員の確保、利用者の支援計画作成等、開設に向けた準備

2013年～

就労継続支援 A 型事業所「九神ファームめむろ」開設

- 平成25年2月に事業所の認定を申請。同年4月から運営を開始。
- 事業所として農産物の生産や農産加工を行うほか、地域に溶け込むため、地域住民を招いた「お披露目昼食会」で事業所が作った惣菜を振る舞うなど、交流イベントも開催。



都市農村共生・対流総合対策交付金事業により、農福連携をテーマとする交流活動を実施（H27～29）

2015年～

新たな取組に着手

- 平成27年には、新たな加工場により加工品目を拡大。また、コミュニティレストランをオープンし、地場産品を使用した定食を提供。レストランでの仕事は、障害者の職域の拡大につながるほか、障害者本人やその家族と町民の交流拠点として機能。
- 平成28年度から、農業体験を含む特別支援学校の修学旅行誘致、企業や大学生を対象とした農業体験（障害者が作業指導を実施）の受け入れにも取り組む。



町内企業への障害者雇用の啓発とあわせ、就労の定着も支援。また、受け入れる企業の負担を極力軽減できる仕組みを提案。

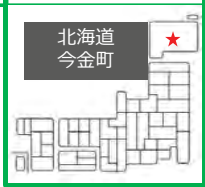
今後の展望

誰もが当たり前のように働いて生きていくために

- 障害者本人とその家族、町民、行政等、関わる人や機関ごとに、それぞれに対して提供できるものと享受するものを明確化した関係を構築。
- 新たな販路に対応した「売れる商品づくり」を常に意識し、雇用の安定を維持するとともに、就労への定着を支援。また、障害者のみならず、高齢者や健常者の雇用の場としても引き続き運営。
- 同様のプロジェクトを全国に横展開することにより、誰もが働いて生きていく場を創出。



○規格外野菜を活用した特産品開発。障がい者雇用や地域活性化に向けたまちづくり会社を設立。



キーワード

内発的

障がい者

農福

基本情報

- 所在地：北海道瀬棚郡今金町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：今金町山村活性化地域協議会
- 主力商品・イベント：
今金男爵コロッケ
- 活用している地域資源：
規格外野菜、観光資源
- 主な国等の支援策：
山村活性化支援交付金
(H27-29)
農山漁村振興交付金（農福連携対策）
(R1-R2)



取組の概要

- 規格外野菜を活用した特産品開発及び流通拡大に向けた販売促進活動を実施。
- 地域の課題解決に向けた組織づくりとして「まちづくり会社：一般社団法人 i・スマイル」を設立。町内養護学校の卒業生を中心に障がい者雇用の受け皿としての役割を担うとともに、農繁期の作業請負等により農業の担い手不足解消に貢献。農福連携事業により整備した拠点施設（農産物加工場）の管理・運営を行うなど、安定的かつ一定数の通年雇用を目指している。



【特産品の開発】
(今金男しゃくコロッケ)



【東京都中野区の商店会
と連携協定を締結】



【まちづくり会社を設立し
障がい者雇用を創出】



【農産物加工場】
(町内の休眠施設を改修)

体制図

今金町山村活性化地域協議会

今金町、今金町商工会、今金高等養護学校、
JA今金町、社会福祉法人光の里

一般社団法人 i・スマイル

- 2017年 設立 職員数8名 上記協議会と協働で「観光案内事業」の試行的開設事業を実施。
- 2018年 前年度の試行を受け、今金町観光協会とのコラボレーションにより観光案内所を開設。

取組の成果

- 地域活性化に向けた母体組織となる「まちづくり会社」の設立
- 町内における高齢者と障がい者の雇用人数
389名（取組前） → 400人（R1実績）
- 農産物の売上額（販売1戸あたり）
12,270千円（取組前） → 15,280千円（R1実績） ※対前比125%

所在地▶北海道瀬棚郡今金町字今金142-39

連絡先▶TEL: 0137-82-0724 FAX: 0137-82-0740

ウェブサイト▶<http://socialtown-imakane.jp/>

- 2006年、障がい者の活躍・雇用の場として地域の基盤産業である農業に参入。温泉の廃熱を活用した熱帯果樹のハウス栽培に取り組み、通年型の観光農園を実現。現在では「農業、福祉、地域、観光」をつなぎ合わせた事業として地域の交流拠点となっている。



キーワード

内発的

人的交流

農福

教育

6次産業化

基本情報

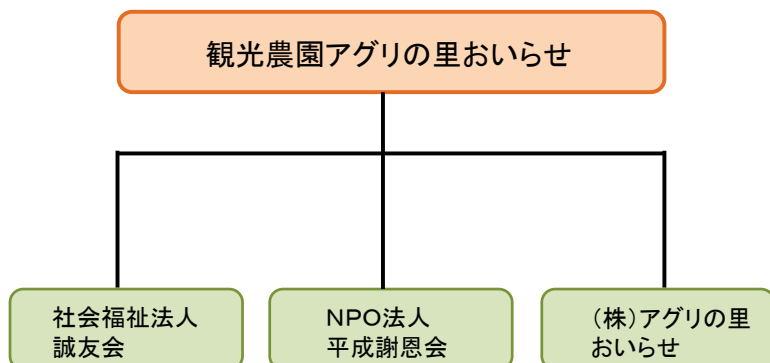
- 所在地：青森県おいらせ町
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：社会福祉法人 誠友会
- 主力商品・イベント：熱帯フルーツ
- 活用している地域資源：観光農園アグリのリ（もち小麦、いちご）、熱帯果樹園（バナナ、パパイア）、工房あぐりの里農園レストラン「百果良彩」
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農福連携対策）

取組の概要

- 障がい者の就労する場として、新鮮な農作物を収穫できるビニールハウスや農園レストラン「百果良彩」などを整備。
- 支援スタッフとともに、通所している障がい者は開店準備や調理補助、収穫作業など多岐にわたり、一人一人が抱える症状に合わせて仕事に従事。
- 農園レストラン「百果良彩」では、農園で収穫された農産物や地元食材を使用し、その素材を活かしたメニューが多くのリピーターに人気で開店と同時に満席状態。
- 農業を含めた様々な職種の従事者が障がい者とともに働き、福祉の役割と繋げる広義の「農福連携」に取組む。



体制図



取組の成果

- 農福連携の教育・体験実習の場として、教育、福祉、農業など様々な分野から問合せがあり、障がい者の就労する場だけではなく農福先進地としての普及拠点の役割。
- 障がい者就労人数（延べ）
9, 078人（2019年）
- 農福連携施設の体験・視察受入れ数
3, 882人（2019年）
- 観光客入込数
412, 453人（2019年）



所在地 ▶ 青森県上北郡おいらせ町向山東2丁目2-1263

連絡先 ▶ TEL:0178-20-0670 FAX : 0178-20-0660

ウェブサイト ▶ <https://www.seiyukai-oirase.jp/>

- 2018年、体験プログラム提供などを通じた食と農業のブランド化を目的として発足。八幡平市の体験プログラムの提供を行う拠点となることを目指して、八幡平市におけるファームステイに関し、「持続可能な農業」と「大地の再生」を基本的なコンセプトに据え、「サステナビリティ社会の実現」と「人々が集う場づくり」を同時に成し遂げることをビジョンとして活動に取り組む。



キーワード

内発的

日本ファームステイ協会

農泊

インバウンド

オーベルジュ

基本情報

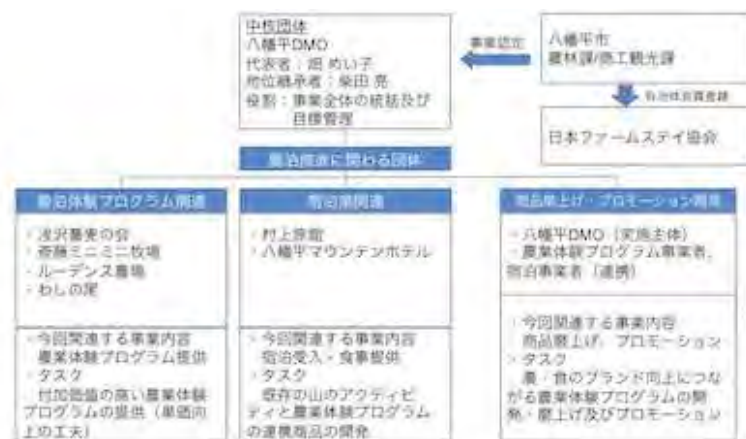
- 所在地：岩手県八幡平市
- 地域指定：振興山村・特定農山村・過疎
- 団体名：八幡平ファームステイ協議会
- 主力商品・イベント：「八幡平オーベルジュツアー」「りんごづくしツアー」
- 活用している地域資源：豊かなアウトドア資源
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- インバウンド対応に向けた取組として、体験プログラムの造成（5プログラム）やこれまで修学旅行受入用に低価格で提供していた体験を、インバウンド向けに高単価で受入できるようブラッシュアップ。
- 地域の宝である地酒「鷺の尾」の酒蔵見学、地域の食材と地酒のペアリングを楽しむ「八幡平オーベルジュツアー」や、単なるりんご狩りだけではなく、りんごの皮むき、四季のりんご園の説明付き散策、リンゴづくしディナー、リンゴジャム作りなどを盛り込んだ「りんごづくしツアー」にすることで、テーマ性を持たせた外国人向けモニターツアーを実施。



体制図



取組の成果

- 2019年の売り上げ実績は、2017年の4倍以上の実績を確保。
- マーケティングの取組の強化として、協議会ウェブサイトにて体験商品を販売。体験プログラムと地域の宿泊施設を組み合わせた旅行商品を造成し、OTAなどを活用して継続手に販売。海外旅行エージェント向けの体験タリフ（営業資料）作成の取組に繋がる。

所在地▶岩手県八幡平市

連絡先▶TEL: FAX: E-mail:お問合せ <https://slowstay8.com/contact/>
ウェブサイト▶<https://slowstay8.com/>

○日本で唯一広大な漆林を有する地域であり、国産漆の需要が高まる中、2017年、漆原木の資源調査、計画的な植栽、適切な管理方法等の検証を行い、漆の安定供給に向けた取組を実施。漆関連産業の担い手（漆掻き職人や漆師、木地師等）の育成を行うとともに、文化財以外の需要掘り起こしのため、漆の木の活用や漆器等の商品開発、浄法寺漆のブランド確立、販路の拡大に取組む。



キーワード

内発的

日本うるし保存会

技術伝承

販路拡大

基本情報

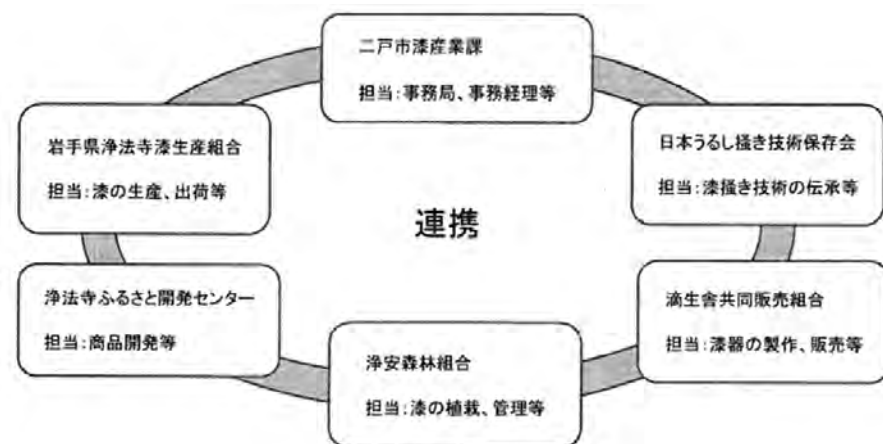
- 所在地：岩手県二戸市
- 地域指定：特定農山村・過疎・振興山村
- 団体名：二戸市
- 主力商品・イベント：浄法寺漆
(木の活用、器)
- 活用している地域資源：漆
- 主な国等の支援策：山村活性化支援交付金

取組の概要

- 地域資源の調査や付加価値向上等の取組として、漆原木の資源調査を行うとともに、安定的な生産に向け、苗栽培試験、モデル林での植栽等を行い、生育状況や管理方法を検証。
- 漆器の生産体制構築や技術伝承のため、木地加工技術等の研修、漆掻きのマニュアルを作成。
- 地域資源の消費拡大や販売促進等の取組として、市内での漆の体験イベントや首都圏等での展示実演販売を通じて、漆器の販路拡大に取組む。
- 漆の普及啓発のためのパンフレットを作成。



体制図



取組の成果

- 漆出荷量 935Kg → 1,487Kg (2019年実績)
※対前年比 159%
- 漆製品販売額 1,700万円 → 2,540万円 (2019年実績)
※対前年比 149%
- 漆関連産業の担い手の増加 (2019年実績)
(木地師1名、塗師2名 (市内の漆器展示、販売施設))

所在地▶岩手県二戸市石切所字荷渡6-3

連絡先▶0195-23-0180

- 2008年、地域づくりを目的とした地域協議会を設立。2011年、遊休農地を活用し、農業体験を通じた高齢者、障がい者、子どもの交流を目的とした「福祉農園」を設置。福祉農園を中心に、地域ぐるみで特産物の生産、加工、販売や景観形成活動、高齢者の生活支援などに取り組み、移住者の定着にもつながっている。



キーワード

内発的

大学

6次産業化

福祉農園

ドローン

関係人口の創出

基本情報

- 所在地：岩手県花巻市高松
- 地域指定：特定農山村・過疎・振興山村
- 団体名：高松第三行政区ふるさと地域協議会
- 選定表彰：H29年東北農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
- 主力商品・イベント：ふるさと宅配便、ガマズミゼリー
- 活用している地域資源：遊休農地を活用した福祉農園
- 主な国等の支援策：農山漁村地域力発掘支援事業、農山漁村振興交付金（地域活性化対策）

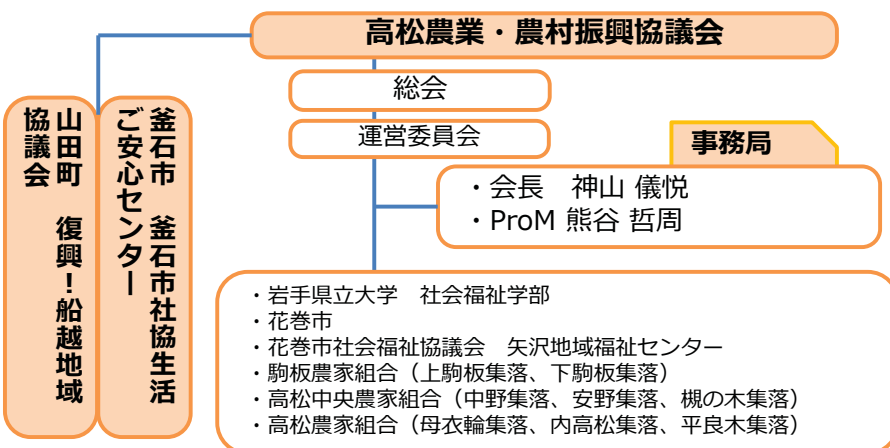


取組の概要

- 地域の高齢者等の福祉や交流を目的に遊休農地を活用した福祉農園を設置。特産物として里山に自生している樹木（ガマズミ、ナツハゼ）を植栽。収穫した果実はゼリーに加工、販売している。
- 福祉農園の他、遊休農地を活用した貸し農園の設置、運営も行い、地域内外の人々が交流する場となっている。また、集落から離れた親族などを対象に集落の作物を通信販売する「ふるさと宅配便」を実施。
- 地域住民総参加の景観形成活動を展開。参加数は年間で延べ500人（全住民が3回参加したことになる）。また、2016年からドローンを活用した景観点検を実施。
- 誰もが安心して暮らせる持続可能な地域を目指し、高齢者を対象とした自動車による買い物等への付き添い支援、配食サービス、見守り活動にも取組む。
- 岩手県立大学や花巻市等7団体と連携しWSや研修会を重ね2019年に「農村版地域包括ケアシステム構築ビジョン」を策定。



体制図



取組の成果

- 福祉農園では、高齢者、障がい者、子どもが収穫体験等をし、表情が明るくなるなど精神面や教育面でもポジティブな効果発現。
- 加工品は約1万個、「ふるさと宅配便」は毎年100個の販売。
- 貸し農園、福祉農園の収穫・交流会には多くの参加者が訪れ、2019年の関係人口は1,800人。
- 景観形成活動による美化に魅せられて10世帯が移住。

所在地 ▶ 岩手県花巻市高松

連絡先 ▶ TEL:090-4638-9764（事務局長（熊谷）） FAX: E-mail:

ウェブサイト ▶

【取組のプロセス】

高齢化、人口減少が進み集落存続の危機感。

2008年～

農林水産省「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」による地域づくり活動を開始。

集落から離れた親族などを対象に集落の作物を通信販売する「ふるさと宅配便」実施に向けたアンケートを実施。

2010年～

2011年～

農林水産省「農山漁村振興交付金」を活用。

2014年～

2011年から岩手県立大学社会福祉学部による支援（宮城好郎教授）

2019年

今後の展望

きっかけ

○高松第三行政区ふるさと地域協議会設立。

住民総参加の景観形成活動

- 手入れされていたかつての景観を復元しようと地域住民総参加の景観形成活動を展開。参加数は年間で延べ500人（全住民が3回参加したことになる）。
- 2016年からドローンを活用した景観点検を実施。

関係人口の創出

- 遊休農地を活用した貸し農園の設置、運営。農園は、地域内外の人々が交流する場となっている。「ふるさと宅配便」を実施。

福祉農園の設置と6次産業化

- 地域の高齢者等の福祉や交流を目的に遊休農地を活用した福祉農園を設置。
- 地域資源として里山に自生している樹木（ガマズミ、ナツハゼ）を植栽。収穫した果実はゼリーに加工、販売。

生活課題解決に向けた取組

- 2014年から一人暮らしの高齢者などへ福祉農園の食材を活用した配食サービスを実施。
- 全住民アンケートで「通院や買い物などの足の確保」の必要性が訴えられ、花巻市と協議をして2016年～2017年に、社会実験としての自動車による買い物等への付き添い支援を実施。2018年以降は花巻市の協力の下継続。
- 付き添い支援や配食サービスが見守り活動としても機能。

連携7団体との協働によるビジョンの策定

- 「地域のあるべき姿」を模索する中で、岩手県立大学や花巻市等の連携が生まれ、WSや研修会を重ね2019年に「農村版地域包括ケアシステム構築ビジョン」を策定。

『農福連携』で、地域が元気になるように

- 関係人口の更なる創出と外部人材による農作業（学生の草刈り援農隊等）の体制整備。
- 福祉農園を活用した「青空デイサービス」の実施。
- 現在進行中の農地整備事業と併せた営農計画の策定と福祉施設への食材供給体制の構築。



- 2014年、地域住民と施設利用者（障がい者）の交流を通じ、地域の活性化や利用者の地域交流の場を確保、体力向上や維持を目的に農産物の栽培を開始。遊休農地を活用し、障がい者の働く場（工賃向上）と地域交流の場の確保を目的にイチゴの栽培と観光農園を開始（2020年）。



キーワード

外部との連携

地域住民

農福

農業

都市農村交流

基本情報

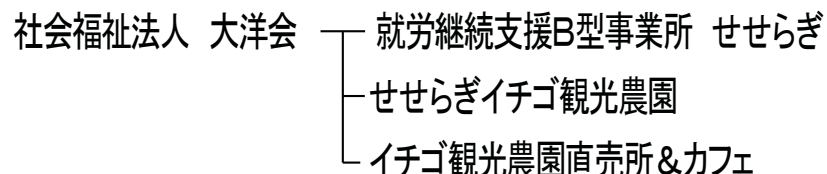
- 所在地：岩手県大船渡市
- 地域指定：振興山村・特定農山村
- 団体名：社会福祉法人 大洋会
青松館せせらぎ
- 主力商品・イベント：トウモロコシ、シャインマスカット、イチゴ
- 活用している地域資源：遊休農地
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農福連携対策）

取組の概要

- 農産物の生産だけでは売上金額が伸び悩み、真空包装機や焼き芋焼き機などを導入し加工販売に着手。冷凍保存により品質の維持、年間通しての販売が可能となり売上金額が向上。
- 地域住民の協力や研修等により栽培技術が向上し、農産物の収穫量も増加。地域住民や地域の保育園児を招き、収穫体験を通しての交流を開始。
- 災害公営住宅前での農産物の訪問販売を開始（不定期）。
- 施設利用者（障がい者）の作業工賃向上に向け、農事組合法人や民間観光農園の指導を受け、イチゴの栽培と観光農園を開始（2020年）。



体制図



取組の成果

- 施設利用者（障がい者）の作業工賃が、県平均を上回る3万円台で支給可能となる。
- 農産物の売上額
295千円（2010年）→ 1,700千円（2019年）
- 施設利用者の作業工賃額
32,000円（2010年）→ 34,624円（2019年）
- 活用農地面積 50.6アール（2010年）→ 110.6アール（2019年）

所在地 ▶ 岩手県大船渡市立根町字下欠125-15

連絡先 ▶ TEL:0192-26-3800 FAX: 0192-26-2771

お問合せ ▶ <http://www.taiyokai.or.jp/publics/index/3/>

ウェブサイト ▶ <http://www.taiyokai.or.jp/>

- 2018年、ブランド力のある観光コンテンツと農泊とを掛け合わせ、新たなコンテンツとして磨き上げ発信し農泊ビジネス実施体制の構築に向け発足。「蔵王福祉の森構想」の取組により、蔵王への定住化・観光・農業振興など多様なメニューを具体化。インバウンドを含め広域から旅行客を集客し、地域の経済発展のための体制、マーケティングの強化に向けて取組む。



キーワード

内発的

農泊

遊休施設

ワーケーション

基本情報

- 所在地：宮城県蔵王町
- 地域指定：中山間地
- 団体名：蔵王農泊振興協議会
- 選定表彰：日本の棚田100選
- 主力商品・イベント：着付け体験などの体験を受け入れている「山水苑」、温泉風呂付貸切ログハウス「NJ ZAO」
- 活用している地域資源：温泉水、水、間伐材
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

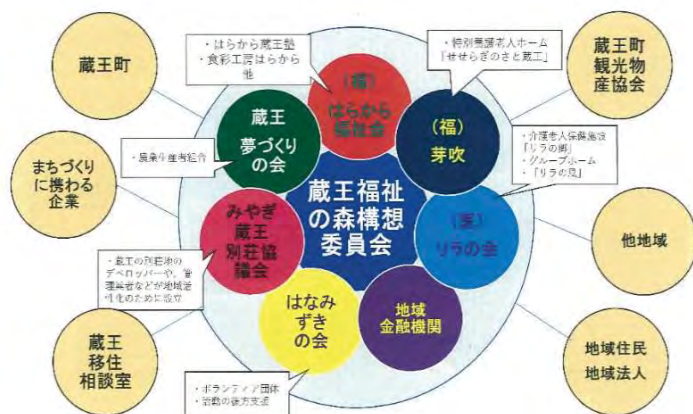


取組の概要

- 「蔵王福祉の森構想」の取組により、誰もが安心して暮らすためのセーフティネットの構築。
- 地域資源（温泉水・水・間伐材）の有効活用による再生可能エネルギーと循環型社会の構築。
- 空き家（別荘）の有効活用とバケーションレンタルの実施に伴い、適切な維持管理が業務として、地域の雇用を生み出し高齢者・障がい者の雇用にも寄与。
- 新たなマイクロツーリズム・ワーケーションの導入により、農泊・民泊とインバウンド需要を獲得。
- 体験型複合観光施設「Wiid Zao Village」を開設。地域が抱える問題の解決（地域が抱える問題（負債）を観光客誘致（資産）にスワップ）と地域活性化のハイブリッド戦略を展開。



体制図



取組の成果

- モニターツアーの実施状況（外国人旅行者への周知とともに、農泊施設拡大のため、別荘民泊に興味のあるオーナー候補に広く周知し開業施設拡大を図る。）宿泊モニター数（延べ）46人
- 延べ宿泊者数 0人（2017年）→ 8,500人（2019年）
- 体験プログラム数 0（2017年）→ 15（2019年）
- 宿泊施設数（農泊に関わる新規施設）0件（2017年）→ 15件（2019年）

所在地 ▶ 宮城県蔵王町遠刈田温泉字小妻坂75-31

連絡先 ▶ TEL:0224-34-1192 FAX : 0224-34-2869

E-mail:udagawa@zao-sansuien.jp ウェブサイト ▶ <http://zao-nouhaku.jp/>

- 2018年、国家戦略特区を活用して国内旅行業務取扱管理者資格及び地域限定の旅行業を取得し、旅行業者としてワンストップサービスの体制を構築。国内外の個人旅行観光客への対応と所得向上を目指し、情報発信や情報収集について、独自の事業展開を実施。行政に頼ることなく、会員それぞれが積極的に実施する事業を支援。



キーワード

内発的

J I C E

都市農村交流

農泊

インバウンド

アルベルゴ・ディフゾン

基本情報

- 所在地：秋田県仙北市
- 地域指定：振興山村・特定農山村・過疎
- 団体名：一般社団法人 仙北市農山村体験推進協議会
- 選定表彰：ディスカバー農山漁村の宝（フレンドシップ賞）
- 主力商品・イベント：農家体験、自然体験、歴史・文化体験、郷土料理体験、農伝統工芸品体験
- 活用している地域資源：自然（田沢湖）、歴史・文化（武家屋敷）、郷土料理（きりたんぽ）など
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- 国際交流団体の受け入れに加え、FIT（海外個人旅行）の受け入れ数が急激に伸び、グリーンツーリズムの宿の外国人宿泊者数は年間2,130名（2018年）を超える。
- 地域全体にWiFi環境、カード決済システム、多言語標記導入などの環境整備の必要性を理解してもらうための活動に注力し、自発的な取り組みに繋げる。
- 国内外の個人旅行者の誘客拡大に向けて高齢の受入農家の労力を軽減し、開業農家や泊食分離、アルベルゴ・ディフゾン（分散型ホテル）の考え方に基づく地域づくりを目指す。



体制図

仙北市農山村体験推進協議会

中心的な役割を担う団体

・(有)田沢湖自然体験センター

<事務局>

仙北市観光商工部
農山村体験デザイン室

宿泊・食事部門

・あきた芸術村
・休暇村乳頭温泉郷
・NPO法人

田沢湖ふるさとふれあい協議会
・グリーン・ツーリズム西木研究会
(上記の団体に所属以外も含め、グ

体験・交流部門

・(有)田沢湖自然体験センター

・田沢湖レンタサイクル
・旅企画思い出工房
・きもの旅しやなり
(他4団体に提供)

【支援団体】

・(一社)田沢湖・角館観光協会 ・秋田おぼこ農業協同組合
・角館漁業協同組合 ・仙北東森林組合
・仙北市観光商工部、総務部、教育委員会

○ H20年に市、観光協会、JA等が構成員となり設立。

取組の成果

- 外国人宿泊者数
1,808人（2017年） → 2,130人（2018年）
- 協議会会員数
12会員（2017年） → 25会員（2018年）
- 協議会FIT予約人数
0人（2017年） → 178人（2018年）



所在地 ▶ 秋田県仙北市西木町上荒井字古堀田47（仙北市役所 西木庁舎内）
連絡先 ▶ TEL:0187-43-2277（平日9:00～17:00） FAX:0187-47-3234
ウェブサイト ▶ <https://semboku-gt.jp/>

- 2016年、地域内に多く自生している山菜（フキ、タケノコ等）、山野草を活用して加工品や薬膳料理の開発に取り組み、女子栄養大学や料理講師など専門家の指導を受けながら、知識の習得、技術の向上を図る。また、山菜とそれに関わる食をきっかけに、地域ぐるみで新しい産業を創ることを目指し、山菜や協議会の取組について紹介するWebサイト「山菜せんせい（[://sansei-sensei.com](http://sansei-sensei.com)）」を立ち上げて情報を発信。



キーワード

内発的

大学

6次産業化

基本情報

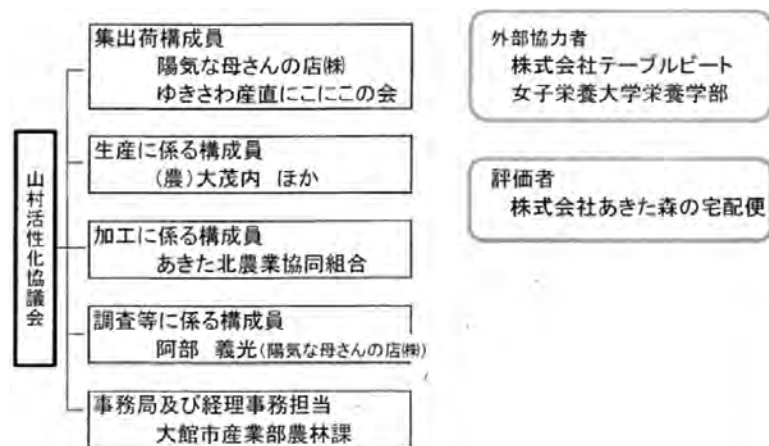
- 所在地：秋田県大館市
- 地域指定：特定農山村・過疎・振興山村
- 団体名：十二所・長木地区山村活性化協議会
- 主力商品・イベント：山菜まんじゅう、薬膳料理、山菜せんせい
- 活用している地域資源：山菜
- 主な国等の支援策：山村活性化支援交付金

取組の概要

- 地域資源の調査や付加価値向上等の取組として、山菜の分布、生育状況のほか、収穫時期、自家消費量、直売所での販売量を調査。
- 郷土の伝統的な保存食を基本にしたレシピや、滋養を活かした薬膳料理等を考案し、新商品のパッケージデザインを開発。
- 地域資源の消費拡大や販売促進等の取組として、旬の短い山の味わいを安定的に供給するために、耕作放棄地を活用した山菜（ウド、フキ、タラノメ等）の試験栽培への取組。
- Webを活用した情報発信「山菜せんせい」、首都圏アンテナショップ等での山菜商品の試食販売を実施。



体制図



取組の成果

- 山菜を活用した新商品の開発
 - 6品（山菜まんじゅう、キャラブキ、ばっけ味噌等）
- 直売所における山菜加工品販売額
 - 91万円（2018年）→ 93万円（2019年）
- 山菜加工品の新たな販路を開拓し継続的に出荷
 - （県内の農家民宿、東京都内のレストラン等）

所在地 ▶ 秋田県大館市

ウェブサイト ▶ 山菜せんせい：[://sansei-sensei.com](http://sansei-sensei.com)

○一度途絶えかけた紅花文化を町民有志の手により1994年に復活を果たし、町民主体でその生産を年々拡大。近年、国産品の需要の低下、海外加工品の参入による価格競争の激化などから紅花生産者の所得に直結、貴重な紅花文化の存続が危惧される中、紅花にちなんだ「紅（あか）」をテーマとしたブランド化と、質の高い一次加工品の生産技術向上へ取り組む。



キーワード

内発的

町民有志

6次産業化

教育

藍染め

基本情報

- 所在地：山形県白鷹町
- 地域指定：平地農業地域
振興山村・特定農山村・過疎・特別豪雪
- 団体名：山形県白鷹町日本の紅（あか）をつくる町連携推進本部
- 選定表彰：令和2年度東北農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
株式会社山形テレビ第14回～第16回ふるさとCM大賞
- 主力商品・イベント：町内産の紅（あか）い商品「シラタカ・レッド」
- 活用している地域資源：紅花
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（地域活性化対策）

取組の概要

- 2002年に町をあげての観光イベントとして「白鷹紅花まつり」をスタート。2015年には、紅花生産日本一の里として「白鷹町日本の紅（あか）をつくる町連携推進本部」を設立。紅花の生産と観光を両輪とした事業に着手し、古くから白鷹町に存在してきた紅（あか）いものを「SHIRATAKA RED」と名付け、地域の再生や6次化による生産者の所得向上に取り組む。
- オール白鷹産「紅花先染め振袖～万葉からの誘い～」の作成。白鷹産最上紅花を加工した最高品質の「紅餅」と万葉集の歌にある紅の八潮（八回染め重ねた濃色の紅花染め）を再現。
- 「半夏一輪咲き」や「連作障害」など、紅花の特性や栽培の苦勞を子ども達に解る簡単な言葉で表した絵本「しらたかべにばなものがたり べにばなふしぎ」を作成。SHIRATAKA REDのオリジナルソング「おどる！シラタカ・レッド」とダンスを作成し、ダンスフェスタ開催。
- 町内の全小中高校生による地域学習での取り組みや、花摘みボランティア事業に取り組み、紅花生産量日本一を継続しながら、次世代を担う子供たちが貴重な経験や体験を通して、郷土の誇りや郷土を愛する心の醸成につなげていく取組み。
- 日本一の藍の生産地である徳島県上板町の藍染めとの連携を通した新たな販路構築に向けた取組み。



体制図

【組織構成】

白鷹町・白鷹町商工会・山形おきたま農業協同組合白鷹支店・（一社）白鷹町観光協会・山形県酪農農業協同組合白鷹支所・（一財）白鷹町アルカディア財団・白鷹紅の花を咲かせる会・山形銀行荒砥支店・山形県置賜総合支庁（事務局：商工観光課）

実施

- ・生産者支援
- ・土壌調査、国土保全
- ・付加価値（商品開発）
- ・生産者所得向上
- ・観光商品開発
- ・観光エクスカーション
- ・交流人口増大
- ・日本の紅（あか）をつくる町、シラタカ・レッドイメージ定着

委託・連携

株式会社伊勢半本店、
紅花まつり実行委員会、
山形県紅花生産組合連合会

< 関連事業 >

- ・紅花まつり
- ・紅花colors
- ・雪紅（あかり）

取組の成果

- 紅花生産量の拡大：142.0Kg（2015年）→ 173.0Kg（2019年）
- シラタカ・レッド商品の売上高：134千円（2017年）→ 7,367千円（2019年）
- 2019年、本町も含めた構成市町が「歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」～日本で唯一・世界でも稀有な紅花生産・染色用加工システム」が日本農業遺産に認定。

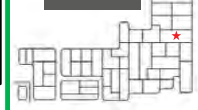
所在地 ▶ 山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥甲833

連絡先 ▶ TEL:0238-85-6126 FAX:0238-85-2509

E-mail ▶ shoukou@so.town.shirataka.yamagata.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.town.shirataka.lg.jp/2146.html>

- 2004年、NPO法人「こころネットワーク県南」を設立（2011年、社会福祉法人に移行）。精神障害を中心とする施設利用者が、メインとなる養鶏のほか野菜栽培、加工、直売所の運営などを通年で実施。支援学校卒業生の積極的な受け入れを行い、職業訓練の場、働く場としての農業として機能。地元の農業法人等と協力的な関係を構築し、一般就労へ向けての訓練や支援に取り組む。

福島県
泉崎村

キーワード

内発的

農業経営コーディネーター

GAP営農指導アドバイザー

農福

6次産業化

基本情報

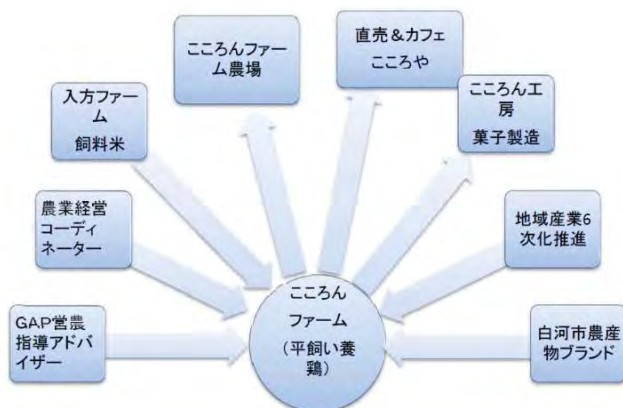
- 所在地：福島県泉崎村
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：社会福祉法人 こころん
- 選定表彰：H29ディスカバー農山漁村の宝（アクティブ賞）、H29ふくしま地産地消大賞、R2ふるさとづくり大賞、R2ふくしま産業賞
- 主力商品・イベント：直売所・カフェこころや（ここたま（鶏卵））
- 活用している地域資源：遊休農地
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農福連携対策）

取組の概要

- 地域との連携をとりつつ、施設利用者たちの就労（就労移行）の場として新たな養鶏場や直売所・カフェ「こころや」を整備し、こころんの6次産業型福祉農園（障がい者は様々な仕事が体験できる）に取り組む。
- 鶏の健康を考えた平飼いにより、ストレスのない鶏が産む、殻が固く白身の盛り上がった新鮮たまご「ここたま」を販売。県内外のマルシェ（全国車椅子駅伝、ノウフク朝市ほか）に参加し、販路開拓・拡大に取り組む。
- ①こころんファーム（農業、養鶏）、②こころん工房（スイーツ）、③なごみの家（惣菜工房）、④こころや（直売）、⑤Cocoroyacar（移動販売）など生産・加工・販売までを、こころんの就労支援事業（6次産業化）として展開。



体制図



取組の成果

- 施設利用者は、農業を通して体力や忍耐力が身についたほか、地域の人々と触れ合う機会が多くなることで家族間のトラブルが減少し、明るさを戻す。また、直売所の売上げの増加（J-GAP取得により、その食材で作る直売所・カフェのランチが好評）に伴い、利用者の所得も向上。
- 農産物の売上 1, 100万円（2015年）→ 1, 656万円（2019年）
- 直売所の売上 5, 779万円（2015年）→ 6, 605万円（2019年）

所在地 ▶ 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字下根岸 9

連絡先 ▶ TEL:0248-54-1115 FAX : 0248-53-3063

E-mail: izumizaki@cocoron.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.cocoron.or.jp>

【取組のプロセス】

